事業別価値提供

土木事業本部

戦略解説

請負業務中心のスタイルから脱却し、提案営業による設計施工案件の拡大をめざす

土木事業本部長　一色 眞人

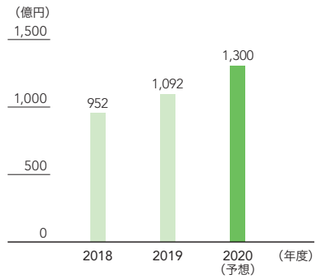
中期経営計画2020では、大きな目標として「業績目標」「建設事業の進化」「事業領域の拡大」の3点を掲げました。1つ目の「業績目標」は、受注高・売上高・売上総利益ともに目標値をクリアして推移しています。「建設事業の進化」は、技術開発とCIMの積極的活用を二本柱に生産性の向上に注力し、CIMは2019年度から現場適用を原則としました。「事業領域の拡大」は設計施工、維持管理、更新工事、ストックビジネス、そしてワンストップソリューション事業の一環でもある土地区画整理事業への取り組みを強化します。

将来を見据えた展開として「事業領域の拡大」に取り組んでいますが、現時点では十分な利益を獲得できる体制であるとは考えていません。そのため、これまでどおりに中央官庁工事やNEXCO工事などで利益を確保しつつ、同時進行的に新たな領域での事業拡大が必要と考えています。また、設計施工では設計会社との連携を、更新工事ではPC会社などの異業種との連携をそれぞれ強化し、良好なコミュニケーションをとれる異業種ネットワークの構築が急務ととらえています。請負業務中心の従来のスタイルから脱却するため、社員の意識改革を促すとともに積極的な提案営業を社員一人ひとりが着実に実行することで、設計施工案件の拡大をめざしていきます。

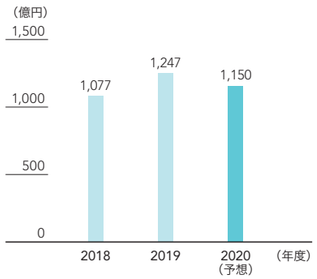
当社は環境経営にも注力しており、2016年3月には環境省の「エコ・ファースト企業」に認定されました。2019年6月には脱炭素社会への実現にむけた新たなチャレンジ「2030年度CO_2排出ネットゼロ」を始動させ、ネットゼロ達成手段の一つとして創エネルギーに取り組んでいます。これには全社的な連携が不可欠であり、土木事業本部としても積極的に関わっていく方針です。

強　み　山岳トンネル部門とシールドトンネル部門における業界トップクラスの現場力（現場社員の優秀さに加え、現場を支える全社的な支援体制を含めた現場運営能力）

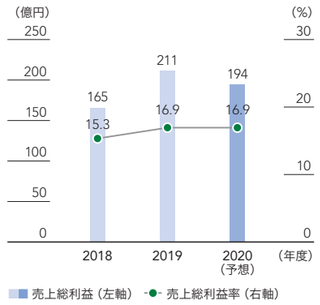
受注高（個別ベース）



売上高（個別ベース）



売上総利益／売上総利益率（個別ベース）



プロジェクト紹介

ICT技術およびプレキャスト化の採用による生産性向上

新東名高速道路　湯船原トンネル工事

本工事は、静岡県駿東郡小山町湯船から御殿場市神場にかけて新東名高速道路を新設する工事です。主な工事内容は小山町湯船地区でのトンネル工事（延長：約1,600m×2（上下線））と、御殿場市神場地区での土工事（延長：約1,500m、盛土：約77万㎥）です。新東名高速道路の開通により東名・新東名のダブルネットワークが形成され、東西交通を分断する通行止めの発生が減少し、東名高速の渋滞緩和、東西を結ぶネットワークの信頼性向上、日本の大動脈として三大都市圏の連携強化にむけた効果が期待されています。

マシンコントロールブルドーザーと3D盛土情報管理システム搭載ローラーの活用

特徴的な取り組み

当現場では大規模土工事の効率化、省力化の取り組みとしてICT技術、プレキャスト化BOXを採用しています。レーザースキャナによる起工測量から三次元データの作成、UAVによる出来形測量およびICT建設機械を導入し、現場での測量・データ整理業務を大幅に削減させています。また、盛土内を横切るBOXカルバート（内空H6.2m×W15.0m）では、側壁部をプレキャスト化したハーフプレキャスト工法に取り組み、現場打ちコンクリート部の型枠・鉄筋施工を単純化したことにより工程を約30%短縮し、近年の熟練工不足・働き方改革などの問題解決に大きく貢献できています。

ハーフプレキャストBOX部材
据付け施工状況

ハーフプレキャストBOX部材
反転機による施工状況

ハーフプレキャストBOX
現場打ち頂版施工状況

主な実績

国道４５号　萩牛北地区道路工事

発注者：国土交通省　東北地方整備局

平成28-31年度横瀬川ダム本体建設工事

発注者：国土交通省　四国地方整備局

一般県道奥ノ平時津線道路改良工事
（(仮称)久留里トンネル）

発注者：長崎県（長崎振興局）